2 CASE

研究開発、生産、物流、マーケティング・販売など、幅広い領域で価値を創出する

▶▶味の素株式会社

INTERVIEW
原野 洋介
味の素株式会社
コーポレートサービス本部
イノベーション研究所
基盤技術研究所 情報科学グループ
兼 食品事業本部 生活者解析・事業創造部
早稲田大学 理工学部 環境資源工学科 卒

あらゆるビジネス領域の改善に加え、新規事業の創出にもデータを活用

味の素のイノベーション研究所に所属するデータサイエンティストは、社内外の多様なデータ分析、ＩＣＴ技術の活用を通して、新商品開発、顧客価値の創出、工場自動化、業務プロセス改善など、自社におけるあらゆるビジネス領域の課題解決に取り組んでいます。基本的にはプロジェクトベースで仕事を進めており、一人ひとりのデータサイエンティストが研究から実装まで幅広い業務を担当しています。また２０１８年４月には食品事業本部内に、ビッグデータを活用して生活者の行動・深層心理を分析することで既存事業の革新や新規事業の創出を目指す新組織『生活者解析・事業創造部』を設立。様々な部門からデータ活用を推進する人材が集い、私自身も同部門に参加しています。

Web上の生活者の声、工場のデータなど、多様な分析対象から価値を生み出す

当社でデータサイエンスを活用した代表的な事例として、マーケティング・販売領域と、ものづくりに関するプロジェクトを紹介します。

マーケティング・販売領域では、多様化する生活者のニーズに応えるために、家庭用向け商品のマーケティング担当者や広告代理店と連携し、Webサイトの記事やブログ、ＳＮＳのテキストといったインターネット上にある生活者の情報と、購買履歴などの外部情報を組み合わせて分析することにより、生活者の意識や行動を多面的にとらえるデジタルマーケティングを推進しています。例えば家族の食事の実態について書かれたＳＮＳのテキストを分析した事例では、母親が食事を通して子供に伝えたい本音を抽出し、広告メッセージに組み込みました。人の本音が表出しやすいＳＮＳを分析することで、対面インタビュー調査では表れにくい深層心理にまで迫ることができたため、マーケティング部門からも高い評価を得られました。

ものづくりに関しては、工場に設置した多種多様なセンサーから取得した温度や物質・成分の濃度といったデータをもとに、機械学習やＡＩ技術を活用して、これまで熟練者の経験に頼っていた製造プロセスの自動化や高度な品質管理システムの構築を進めています。データ分析によってより効率が高く、安心・安全な生産に繋がる変数を把握できたことで、研究・実証実験の成果が社内で評価され、現在は工場現場でのシステム導入に向けた準備を進めています。

データサイエンスで新しいビジネスを生み出すことを楽しむ

データサイエンティストには、ビジネス課題を理解した上で整理・解決する「ビジネス力」、情報処理・人工知能・統計学を駆使する「データサイエンス」、データサイエンスを実装し、運用できる形にする「データエンジニアリング」という３つのスキルが必要であると言われていますが、当社では個性や強みの異なる多様な人材が連携し、チームとして力を発揮することを目指しているため、３つのスキルのいずれかに強みを持っていれば活躍できるチャンスがあると感じています。

当社のデータサイエンティストは、自社ビジネスのあらゆる領域で仕事をするチャンスが与えられます。様々な部門の人々と協業するためのコミュニケーションを楽しみ、情熱・バイタリティを持って、従来の延長線上ではない、新しいビジネスを一緒に作り上げていく魅力を感じられるフィールドがあるといえるでしょう。